

せいきょうれんNEWS

全岐阜県生活協同組合連合会

〒509-0197 岐阜県各務原市鵜沼各務原町1丁目4番地の1

TEL 058-370-6867 E-mail ksatou@tcoop.or.jp HP <https://www.coop-gifukenren.jp/>

第50回通常総会を開催しました

2025.6.21

6月21日(土)、岐阜市のワークプラザ岐阜大会議室において、全岐阜県生協連第50回通常総会を開催し会員生協より代議員28名(実出席25名、書面3名)が出席しました。

根崎会長理事の開会挨拶に続き、来賓よりご挨拶をいただきました。岐阜県環境エネルギー生活部県民生活課の佐藤課長からは、生協が日常的に県民生活の幅広い分野にわたり貴重な役割を果たしていることへの謝意と今後への一層の期待の言葉をいただいた他、県の重要施策の中から食品ロス削減や金融経済教育推進の啓発資材等の紹介もありまし



た。続いて、日本生協連関西地連の村上事務局長からは、被爆・戦後80年の今年、先日の日本生協連総会における特別アピール「2025年 わたしたちの平和宣言」が紹介され、全国生協による連帯活動への参加のお礼とあわせ、「国際協同組合年」の取り組みなど、引き続き積極的な関わりを期待するとの言葉をいただきました。

❖根崎会長理事 挨拶より

全岐阜県生協連は今年で発足50年を迎えます。これまで、岐阜県に生協が誕生して以来、行政や地域の皆さんと協力し、様々な生協が、医療、教育、保障、地域活動など様々な分野で事業や社会活動を進めてきました。また、協同の力を大切に、消費者ネットワークづくり、防災・減災、平和活動に取り組んできました。

今、混沌とする社会情勢や自然環境の変化により、生活環境は厳しさを増しています。ロシア・ウクライナ紛争やガザでの紛争など、世界各地で戦火が続き、環境破壊や貧困も深刻化しています。今年は国際協同組合年であり、協同組合の振興を図る決議が採択されました。協同組合が地域社会の持続可能な発展に重要な役割を果たすことが期待されています。また、今年8月には被爆・戦後80年を迎えます。戦争や核兵器のない世界を目指す活動が重要です。岐阜県連は、これまでの50年間の歩みを大切にしながら、地域の皆さんと共に課題に向き合い、幸せな地域社会づくりを目指して活動を続けていきます。50周年事業を含め、今後も力を合わせて取り組んでいく所存です。これからもご一緒をお願いいたします。



議長にコープぎふ代議員の藤田朋子さんが選出され議事に入り、佐藤専務理事が全ての議案を一括して提案し、小野監事より第1号議案に関わり監査報告がありました。続いて各会員生協からの活動報告で議案を深めました。

その後採決を行い全議案とも満場一致で可決されました。2025年度の活動方針と、それに基づく各活動計画、設立50周年記念事業の計画などが承認され、内藤副会長理事の閉会挨拶で今年の総会を終了しました。

第1号 2024年度事業報告ならびに決算関係書類承認の件
第2号 2025年度活動方針および予算決定の件
第3号 定款の一部改訂承認の件

※裏表紙 (p4) に続く

「祝ノーベル平和賞受賞 平和を考える集い 岐阜」が開催されました

2025.1.12-13

1月12日(日)・13日(月・祝)、岐阜市の円徳寺会館で「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」が主催する「祝ノーベル平和賞受賞 平和を考える集い 岐阜」が開催され、2日間で約200名が参加しました。全岐阜県生協連も会員生協と一緒にこの会に参加しており、核兵器廃絶を目指し原爆被爆者の方と一緒に活動しています。今回の集いは、昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞を祝うとともに、被爆者の話を聴き、核兵器廃絶に向けての課題等を考えることを目的に開催されました。

会場内には、岐阜県原爆被爆者の遺影や核兵器に関するパネルや資料が多数展示された他、ステージ企画では、平和コンサートや詩の朗読、被爆者による講演が行われました。日本被団協の木戸季市さんから、12月ノルウェーのオスロで行われたノーベル平和賞授賞式の報告があり、「核兵器のない世界をつくるためにこれからも力を尽くしたい」と決意が語られました。参加者からも多くの発言があり、平和への思いを共有しました。署名や平和学習会への申し込みも多数あり支援カンパも集まりました。



「まかないくん」を使った炊き出し訓練が始まりました

2025.1.22

1月22日(水)、コープぎふ芥見店の店頭で「防災企画」として炊き出し訓練が行われました。コープぎふは、大規模自然災害に備え、生協組合員等の災害ボランティア組織づくりを計画しており、今回の訓練はその一環として行われました。訓練では、全岐阜県生協連の炊き出し器具の「まかないくん」を使い「豚汁」づくりに挑戦しました。具材はすべて芥見店で調達し、8:30から準備を開始、10時前から12時までの約2時間で計画の50食を超える80食を提供しました。

参加者からは「温かくて美味しい」「簡単につくれる」と好評の声が多く寄せられました。また、「おいしかったので冷凍便利豆腐を買った」という方もおり、炊き出しを通じて生活の役にも立てたようです。アンケートにご意見を書かれる方もおり、結果が楽しみです。今後もコープぎふで継続的な企画が計画されており、県連も参加しながら進めていく予定です。



ぎふハチドリ基金学習会を開催しました

2025.2.10

2月10日、岐阜県生協連理事会後に認定特定非営利活動法人ぎふハチドリ基金の学習会を開催しました。事務局より山田事務局長と橋口さんに来ていただき、同基金の設立経緯や助成事業の内容、社会全体の子ども・若者・子育て家庭の現状について説明を受けました。同基金は2012年に設立され、2018年にNPO法人となり、地域の支え合いで若い世代の困難を解決することを目指しています。これまでにこども食堂や無料塾などを支援してきました。橋口さんからは、2024年度の助成事業実施団体の取り組みが紹介され、助成事業として「利用者負担軽減助成」など特徴的な取り組みが行われていることがわかりました。今後に向けては、寄付やボランティアを増やし、子ども・若者・子育て家庭に優しい地域を目指すと言われました。質疑応答では助成団体の広がりや支援方法について質問が出され意見交流して理解を深めました。



5年ぶりの学習会で、新たな気づきや可能性を参加者が実感できました。これからも会員生協や連合会としてできる応援を考え行動していきたいと思っています。

災害支援をテーマに岐阜県社会福祉協議会と生協の三者懇談会を開催しました

2025.4.4

4月4日、岐阜県社会福祉協議会(岐阜県社協)、コープぎふ、全岐阜県生協連で「災害支援」をテーマに第4回懇談会を開催しました。全岐阜県生協連からは石川県輪島市での炊き出し支援や岐阜県生協大会での講演会開催、岐阜県災害ボランティア連絡調整会議設置訓練への参加などを報告しました。コープぎふからは能登半島地震の被災地支援や防災セミナー、防災訓練の取り組み事例などが報告されました。岐阜県社協からは市町村社協の被災者支援体制整備や災害ボランティアセンター運営支援者研修の様子等が報告され、三者連携による体制整備の促進計画も紹介されました。



意見交換では、災害協定を締結している市町村と生協の関係づくりや三者連携の重要性について中心的に議論が行われました。県内42市町村のうち8市町で地域の協議体が設置されており2市が検討中とのことで、今後も地域内での関係づくり維持や協議会設置の促進が重要課題とされました。また、コープぎふで準備を進めている災害ボランティア組織づくりについて、岐阜県社協から具体的な呼びかけの重要性や敷居を低くするための工夫等について助言をいただきました。

岐阜県では2025年度の課題として、災害に強いインフラや防災システムの整備が進められ、三者連携の取り組みが本格化することが期待されています。ぜひ、生協の私たちも市町村行政や市町村社協との関係を整え直して、防災・減災や災害支援の対応力を高めていきたいと思います。

消費者ネットワーク岐阜第16回総会・記念講演会が開催されました

2025.5.10

5月10日、消費者ネットワーク岐阜第16回総会・記念講演会が岐阜市のハートフルスクエアGで開催され、会場とオンライン合わせて71名が参加しました。第1部の総会では、提案された4つの議案が満場一致で承認されました。

第2部の記念講演では、スマートニュースメディア研究所の長澤江美氏が「SNS時代のメディアリテラシーを高めるために」をテーマに講演し、メディアと情報、アルゴリズム、メディアリテラシーの3つのキーワードに沿って学習しました。デジタルメディアの利用には知識の更新が必要で、情報の正確性を見極めることが重要であること、フェイクニュースの広がりに対しては、発信元やエビデンスを確認することが求められること、また、アルゴリズムの特性を理解し、メディアリテラシーを高めることが重要であること等を学びました。講演後の質疑応答では、情報発信の方法やファクトチェックの実践事例について議論がありました。記念講演会の模様は岐阜大学等の学生にオンデマンド配信され、約200人が視聴しました。



2025年度「協同組合を考える集い」を開催しました

2025.5.15

5月15日、岐阜市の「ぎふメディアコスモス」で岐阜県協同組合間提携推進協議会主催の「協同組合を考える集い」が開催され、県内の協同組合と連合会から112名が参加しました。岐阜県の協同組合間提携組織は1991年に発足し、翌年に「協同組合間提携覚書」を締結、正式に協議会が発足しました。現在、協議会構成団体の合計組合員数は845,228名と増えています。



全岐阜県生協連の佐藤専務理事が司会を務め、JA中央会の太田参事の開会挨拶と主催者紹介があり、岐阜大学の李命美准教授から協同組合間提携推進の歩みや主要な取り組みの報告、続いて各団体から事業等の紹介がありました。

今年は、日本協同組合連携機構の横溝大介氏が「地域における協同組合の可能性」をテーマに講演しました。国連が協同組合の課題解決力を高く評価していること、国際協同組合年の今年は協同組合への注目度が高まり、事業・活動を発展させるチャンスであること、そして、協同組合が連携度合いを高めることで可能性がさらに広がると期待を込めて話されたのが印象的でした。

※表紙 (p1) の続き

毎年の総会では、県連からの報告とあわせ、会員生協からの活動報告で議案を深めています。今回も、各生協から2024年度活動の報告や2025年度の計画が紹介されました。



<議長の藤田さんと各生協の活動報告者の皆さん>

❖2025 年度役員体制❖ ～引き続き、よろしくお願いいたします～

会長理事(代表理事)	根崎 周一	生活協同組合コープぎふ／理事長
副会長理事	内藤 浩	岐阜県労働者共済生活協同組合／理事長
専務理事(代表理事)	佐藤 圭三	生活協同組合コープぎふ／渉外
理事	片桐 学	岐阜県学校生活協同組合／専務理事
理事	平井 恵子	岐阜県労働者共済生活協同組合／専務理事
理事	前口 直樹	岐阜大学消費生活協同組合／専務理事
理事	児玉 幸夫	生活協同組合コープぎふ／専務理事
理事	中村 英洋	西濃医療生活協同組合／専務理事
理事	子安 貞継	生活協同組合アイチョイス岐阜／理事長
監事	小野 廣紀	岐阜市立女子短大生活協同組合／理事長
監事	村上 達也	岐阜県学校生活協同組合／理事長

❖2025 年度の重点課題❖

- (1) 全岐阜県設立50周年の節目の年として活動を進めます。
- (2) 「第5次中期計画」の最終年度となります。「国際協同組合同年」の取り組みを、県内の協同組合や諸団体と連携して進めます。
- (3) 「被爆・終戦80年」の取り組みを、全国の生協、岐阜県の被爆者や諸団体と連携して進めます。
- (4) 防災分野で、特に「災害支援・ボランティア活動」への対応力向上を会員生協と連携して進めます。
全国の生協や県内の諸団体、行政との交流・学習を進めます。
- (5) 50周年を契機に、これからの全岐阜県生協連のあり方を理事会で論議します。

岐阜県学校生協 岐阜大学生協 岐阜県労働者共済生協 コープぎふ
岐女短生協 西濃医療生協 生協アイチョイス岐阜